

平成27年度
決算説明資料

平成28年10月6日

環境局

目 次

	頁
1 温室効果ガス排出量の実績	1
2 EXPOエコマネーポイントの発行実績	2
3 環境学習センターの利用実績	3
4 環境デーなごやの開催状況	4
5 大気環境目標値等の達成状況	5
6 市内の小中学校におけるぜん息被患率	6
7 集団資源回収の実績の推移	7
8 市内の古紙類無人回収所の状況	8
9 なごやか収集の実施状況	9
10 ごみ・資源の収集方法の変遷	10
11 資源の各戸収集に関する区保健環境委員会からの要望状況	12
12 資源4品目を各戸収集した場合の経費の試算	13
13 五条川工場の維持管理経費	14
14 五条川工場における資源の売却実績	15
15 溶融スラグの利活用状況	16
16 焼却工場の稼働状況	17

1 温室効果ガス排出量の実績

(単位：万トン-CO₂)

区 分		排 出 量		増減率 (基準年比)	
		1990年 (基準年)	2013年		
二 酸 化 炭 素	市 民	家庭生活	235	世帯+30% 電灯の灯= 338	+43.7%
		自動車	137	エコドライブ等= 152	+11.0%
		廃棄物	28	16	△42.8%
		小 計	399	505	+26.6%
	事 業 者	工場等	543	335	△38.3%
		オフィス・店舗等	287	+4%の増 △1.5% 385	+34.1%
		自動車	268	198	△25.9%
		その他の 交通機関	81	94	+15.7%
		廃棄物	33	13	△60.6%
		小 計	1,211	1,025	△15.4%
	合 計		1,610	1,530	△5.0%
	その他の温室効果ガス		129	57	△56.1%
総 排 出 量		1,739	1,587	△8.8%	

応答

- (注1) 排出量は、京都メカニズムクレジット反映前のものである。
 (注2) その他の温室効果ガスは、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素である。
 (注3) 数字の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

2 EXPOエコマネーポイントの 発行実績

(単位：ポイント)

区 分		平成22年度 (ピーク時)	平成26年度	平成27年度
環境学習 への参加	環境学習施設 への来館	39,901	6,119	4,550
	環境学習講座 への参加	2,866	2,222	2,037
	保育園等での 出張環境講座 の受講等	11,447	21,693	17,149
エコライフ への取組み	エコ宣言の 実施等	12,438	645	76
	レジ袋の削減	7,714	—	—
	環境家計簿 の実施	7,753	812	941
	エネルギー ダイエット への参加	2,516,111	172,000	—
その他	公共交通機関 の利用	1,269,042	134,156	—
合 計		3,867,272	337,647	24,753

3 環境学習センターの利用実績

(単位：人)

区 分		平成26年度	平成27年度
来 館 者	子 ども	1, 8 5 7	2, 0 2 3
	学 校 等	8, 0 3 3	8, 3 9 1
	一 般	9, 9 6 1	9, 7 0 8
	小 計	1 9, 8 5 1	2 0, 1 2 2
出張講座等参加者	子 ども	4, 9 3 6	4, 1 4 6
	学 校 等	2, 8 6 6	2, 5 4 3
	一 般	4, 8 6 3	5, 3 2 7
	小 計	1 2, 6 6 5	1 2, 0 1 6
合 計		3 2, 5 1 6	3 2, 1 3 8

(注1) 「子ども」は、中学生以下の人数であるが、「学校等」での利用は含まない。

(注2) 「学校等」は、保育園、幼稚園、学校の環境学習の一環として団体利用した園児、児童、生徒及び教員等の人数である。

4 環境デーなごやの開催状況

区 分		平成26年度		平成27年度	
		参加者数 (人)	経 費 (千円)	参加者数 (人)	経 費 (千円)
地 域 行 事	全市一斉クリーン キャンペーン・なごや	100,765	2,554	98,863	2,303
	地域環境イベント	6,410	2,322	9,074	2,076
	環境学習ウィーク・ トライ&アクション	163,000	3,447	163,387	3,486
	環 境 バ ザ ー	8,806	1,840	8,355	1,840
	環 境 学 習 講 座	2,460	442	688	447
	トワイライトスクール 等環境体験学習	5,274	990	5,567	—
	身近な自然体験会	432	480	416	724
	パートナーシップ事業	10,599	—	1,564	—
	区 民 ま つ り 環境デーコーナー	32,677	2,294	32,338	2,052
	小 計	330,423	14,369	320,252	12,928
中 央 行 事		140,000	11,305	140,000	7,625
合 計		470,423	25,674	460,252	20,553

5 大気環境目標値等の達成状況

項目名 (単位)		二酸化窒素 (ppm)		光化学 オキシダント (ppm)	微小粒子状物質 (PM2.5) ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	
環境基準		0.06		0.06	15	35
環境目標値		0.04		0.06	—	—
評価 測定局名(区)		日平均値の 年間98%値		1時間値の 最高値	年平均値	日平均値の 98パーセン タイル値
一般環境 大気 測定局	国設名古屋大気 環境測定所(千種)	—	(0.028)	0.123	12.8	29.9
	愛知工業高校(北)	○	0.032	0.120	13.4	31.6
	中村保健所(中村)	○	0.030	0.112	14.2	33.0
	滝川小学校(昭和)	○	0.031	0.122	13.2	31.8
	八幡中学校(中川)	○	0.030	0.115	13.9	33.9
	富田支所(中川)	○	0.029	0.122	14.3	33.7
	惟信高校(港)	○	0.029	0.117	14.8	35.6
	白水小学校(南)	○	0.037	0.104	15.4	35.2
	守山保健所(守山)	○	0.030	0.127	13.9	31.7
	大高北小学校(緑)	○	0.033	0.101	13.0	30.6
	天白保健所(天白)	○	0.032	0.103	13.2	30.9
自動車排出 ガス 測定局	上下水道局(北)	○	0.034	—	14.2	30.9
	名塚中学校(西)	○	0.031	0.117	16.0	37.0
	テレビ塔(中)	○	0.033	0.113	14.3	32.4
	熱田神宮公園(熱田)	○	0.035	—	11.2	28.4
	港陽(港)	○	0.035	0.105	14.9	34.3
	千竈(南)	○	0.037	—	14.2	31.9
達成 状況	元塩公園(南)		0.050	—	15.0	33.1
	環境基準	17/17		0/14	15/18	
	環境目標値	16/17		0/14	—	

(注1) 平成27年度の大気汚染常時監視結果であり、環境基準を達成していない場合は、太字で示す。

(注2) 二酸化窒素の環境目標値(0.04ppm以下)を達成した場合は、○で示す。

(注3) 微小粒子状物質(PM2.5)の環境基準の達成には、「年平均値」及び「日平均値の98パーセントイル値」の両方が、基準を満たす必要がある。

(注4) 達成状況の欄の数字は、「達成局数/測定局数」を示す。

(注5) 国設名古屋大気環境測定所の二酸化窒素については、年間測定時間が6,000時間未満であり、有効測定局ではないため、評価していない。

6 市内の小中学校におけるぜん息 被患率

区分	小学校			中学校		
	受検者数 (人)	ぜん息		受検者数 (人)	ぜん息	
		被患者数 (人)	被患率 (%)		被患者数 (人)	被患率 (%)
千種	7,025	274	3.90	2,825	111	3.93
東	2,993	144	4.81	1,148	68	5.92
北	7,083	350	4.94	3,392	171	5.04
西	6,710	281	4.19	3,141	141	4.49
中村	4,866	239	4.91	2,306	89	3.86
中	2,101	105	5.00	789	34	4.31
昭和	4,414	220	4.98	1,760	71	4.03
瑞穂	4,916	303	6.16	2,060	104	5.05
熱田	2,602	101	3.88	1,209	52	4.30
中川	11,128	456	4.10	5,529	241	4.36
港	7,683	490	6.38	3,688	247	6.70
南	5,867	382	6.51	2,923	222	7.59
守山	10,008	608	6.08	4,492	266	5.92
緑	15,226	710	4.66	6,961	202	2.90
名東	9,315	456	4.90	4,208	143	3.40
天白	7,991	618	7.73	3,790	191	5.04
合計	109,928	5,737	5.22	50,221	2,353	4.69

(注1) 平成27年度の学校保健調査(市教育委員会)による。

(注2) 特別支援学校の児童、生徒は含まない。

7 集団資源回収の実績の推移

年 度	一般方式		学区協議会方式				回収業者 への補助金 (千円)
			拠 点		各 戸		
	回収量 (トン)	事 業 協力金 (千円)	回収量 (トン)	事 業 協力金 (千円)	回収量 (トン)	事 業 協力金 (千円)	
平成12年度	25	105	122	365	145	145	641
平成13年度	26	118	257	771	297	297	1,835
平成14年度	26	118	274	821	334	334	2,382
平成15年度	27	118	261	783	332	332	2,438
平成16年度	27	116	257	773	319	319	1,797
平成17年度	27	110	254	765	320	321	1,388
平成18年度	27	103	250	754	319	319	1,262
平成19年度	27	95	242	728	315	316	921
平成20年度	26	84	220	665	304	304	282
平成21年度	24	72	197	595	271	271	258
平成22年度	23	71	182	552	258	259	148
平成23年度	23	69	169	513	249	250	0
平成24年度	22	67	166	504	238	239	0
平成25年度	21	65	163	493	230	231	0
平成26年度	21	63	156	471	219	220	0
平成27年度	20	60	144	438	207	209	0

(注1) 回収量及び事業協力金は、1団体あたりの平均である。

(注2) 補助金は回収業者1社あたりの平均である。

8 市内の古紙類無人回収所の状況

(1) 区別の設置箇所数

区分	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	合計
千種	1							1
北		2			1			3
西		1		1				2
中村	1			1				2
瑞穂	1		1					2
中川			1		1	1	1	4
港			1					1
南	1							1
守山	5	4						9
緑	2	2	3					7
名東		1						1
天白	1	1	1					3
合計	12	11	7	2	2	1	1	36

(注) 平成27年度末の設置箇所数である。なお、東・中・昭和・熱田区については、設置を把握していない。

(2) 回収所設置者への対応

古紙業者の組合に対し、市民に集団資源回収を案内する看板等の設置を要請した。

<看板に記載する内容例>

「お住まいの地域で、集団資源回収が行われている場合には、そちらを優先してご利用ください。」

9 なごやか収集の実施状況

(1) 対象となる世帯

以下の要件1又は2に該当し、親族や近隣の人達の協力を得ることが困難で、一人でごみや資源を持ち出すことができない世帯を対象としている。

区 分	内 容
要件1	・要介護認定を受けていて、65歳以上で一人暮らしの世帯
要件2	・身体障害者（身体障害者手帳所持者）で一人暮らしの世帯 ・精神障害者（精神障害者保健福祉手帳所持者）で一人暮らしの世帯 ・知的障害者（愛護手帳の所持者）で一人暮らしの世帯

(注) 同居している人がいても、同居者が高齢者や年少者等で排出が困難な世帯は、対象となる場合がある。

専用車・人員ナシ
空き確認せよ

(2) 対象世帯数

区 分	平成26年度	平成27年度
要件1	2,963	3,014
要件2	715	715
合 計	3,678	3,729

(注) 各年度末時点の世帯数である。

(3) 対象品目

区 分	品 目
ご み	可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、発火性危険物
資 源	空きびん、空き缶、プラスチック製容器包装、紙製容器包装、ペットボトル

(4) 認定実績

区 分	平成26年度	平成27年度
受付世帯数	599	646
認定世帯数	582	610
認定しなかった主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・独力によるごみの排出に支障が認められない。 ・親族、近隣在住者などの協力を得て、通常のごみ排出が可能である。 	

10 ごみ・資源の収集方法の変遷

種 別		現 行	ごみ非常事態宣言時 (平成11年2月)
ごみ	可燃ごみ	各戸収集 週2回	各戸収集 週2回
	不燃ごみ	各戸収集 月1回	ステーション収集 週1回
	粗大ごみ	各戸収集(申込制) 月1回	各戸収集(申込制) 月1回
資源	空きびん	ステーション収集 週1回	ステーション収集 週1回 [千種・昭和・瑞穂・熱田・ 中川・港・南・緑・天白区]
	空き缶	ステーション収集 週1回	ステーション収集 週1回 [千種・昭和・瑞穂・熱田・ 中川・港・南・緑・天白区]
	プラスチック製 容器包装	各戸収集 週1回	
	紙製容器包装	ステーション収集 週1回	
	ペットボトル	ステーション収集 週1回	

変 遷

平成11年 5月～	平成12年 8月～	平成13年 4月～	平成13年 7月～	平成23年 4月～
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
⇒	⇒	⇒	各戸収集 週1回	各戸収集 月1回
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
ステーション 収 集 週1回 [全市]	⇒	⇒	⇒	⇒
ステーション 収 集 週1回 [全市]	⇒	⇒	⇒	⇒
/	ステーション 収 集 2週間に1回	ステーション 収 集 週1回	⇒	各戸収集 週1回
/	ステーション 収 集 2週間に1回	ステーション 収 集 週1回	⇒	⇒
/	ステーション 収 集 2週間に1回	ステーション 収 集 週1回	⇒	⇒

1 1 資源の各戸収集に関する区保健 環境委員会からの要望状況

年 度	要望があった区	背 景
平成26年度	2 区 (南、天白)	<ul style="list-style-type: none"> ・資源ステーションにおける分別の立ち番指導や整理整頓が、保健環境委員に大きな負担となっている。 ・都市化の進行などにより、資源ステーションの確保に苦慮する地域が発生している。
平成27年度	3 区 (北、南、天白)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴い、資源ステーションへの持ち込みが困難な市民も見受けられる。 ・資源を各戸収集することにより、排出者としての責任の明確化や不適正排出の抑制を図ることができる。

28 6区 北西中村
天白

1 2 資源4品目を各戸収集した場合の 経費の試算

区 分	車 両 数	経 費
現 行 (ステーション収集)	1 3 3 両	約 2 6 億円
各戸収集	4 1 2 両	約 8 3 億円
差 引	2 7 9 両	約 5 7 億円

(注1) 「資源4品目」とは、現在ステーション収集を行っている空きびん、空き缶、紙製容器包装及びペットボトルのことである。

(注2) 各戸収集した場合の経費は、民間委託に係る実績をもとに試算したものである。

1 3 五条川工場の維持管理経費

(単位：千円)

区 分	経 費
焼 却	883,291
溶 融	367,870
管 理 費	521,065
合 計	1,772,226

(注) 平成27年度の実績である。

1.4 五条川工場における資源の 売却実績

区 分		平成26年度	平成27年度
溶融スラグ	売却量 (トン)	1,109	2,089
	売却金額 (千円)	239	451
溶融メタル	売却量 (トン)	132	173
	売却金額 (千円)	19,659	24,772

15 溶融スラグの利活用状況

(単位：トン)

区 分		平成26年度	平成27年度	
五条川工場	前年度からの繰越量	1,489	624	
	生 成 量	2,270	3,303	
	利 活 用 量	道 路 資 材	1,109	2,089
		覆 土 代 替 材 <small>ハダクハシ</small>	1,831	0
		計	2,939	2,089
	そ の 他	195	67	
	翌年度への繰越量	624	1,772	
鳴海工場	生 成 量	27,951	29,846	
	利 活 用 量	道 路 資 材	9,961	5,539
		コンクリート二次製品	5,832	8,378
		民間用土木資材等	12,158	15,929
		計	27,951	29,846

(注1) 数字の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

(注2) 「その他」とは、保管中に蒸発した水分量である。

1 6 焼却工場の稼働状況

(単位：トン/年)

工場名 (設備規模)	処理能力	焼却量
南陽工場 (1,500トン/日)	383,000	267,532
猪子石工場 (600トン/日)	153,000	148,522
五条川工場 (560トン/日)	143,000	133,476
鳴海工場 (450トン/日)	115,000	115,950
富田工場 (450トン/日)	休 止 中	
合 計	794,000	665,479

(注1) 焼却量は、平成27年度の実績である。なお、数字の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

(注2) 処理能力は、必要な法定点検等を除いた日数を基準として算出した。
 処理能力＝設備規模×365日×70%

